

## 共に学べる共生社会をめざして

兵庫県では、大学や企業、社会福祉法人、NPO法人などの様々な障害者支援団体等が連携し、障害者本人も参画する「地域連携コンソーシアム」を形成して、障害者の生涯学習支援のための課題解決に向けた協議や支援のための取組を行っています。障害の有無にかかわらず、誰もが学べる共生社会をめざして、一緒に取り組んでみませんか。

みんなが利用しやすい博物館をめざして

ミュージアムインクルージョンプロジェクトにご協力ください。

随時募集中

ご協力いただける場合は、下記へご連絡ください。

『学び場検索アプリ』へのご登録にご協力ください。



ミュージアムインクルージョンプロジェクト・学び場検索アプリの登録に関するお問い合わせはこちらから

「ひょうご障害者の生涯学習」連携コンソーシアム事務局  
(神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創造研究センター内)  
TEL:078-803-7970

『共に学び、生きる共生社会コンファレンス』や学びを支援する人たちのための研修会を実施しています。関心のある方はどなたでもご参加いただけます。開催情報は、兵庫県教育委員会社会教育課HPに随時掲載



## 問い合わせ

兵庫県教育委員会事務局社会教育課社会教育班

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

Tel 078-362-3782 Fax 078-362-3927

# 共に学べる共生社会をめざして



# 01 学びたい思いを形にする取組

## 社会教育施設の利用促進

**Q** 令和3年度に実施した障害者の生涯学習に関するアンケート調査より明らかになったことは？

**A1.**

活動する意欲があるにもかかわらず取り組んでいない人の割合が

**55.8%**

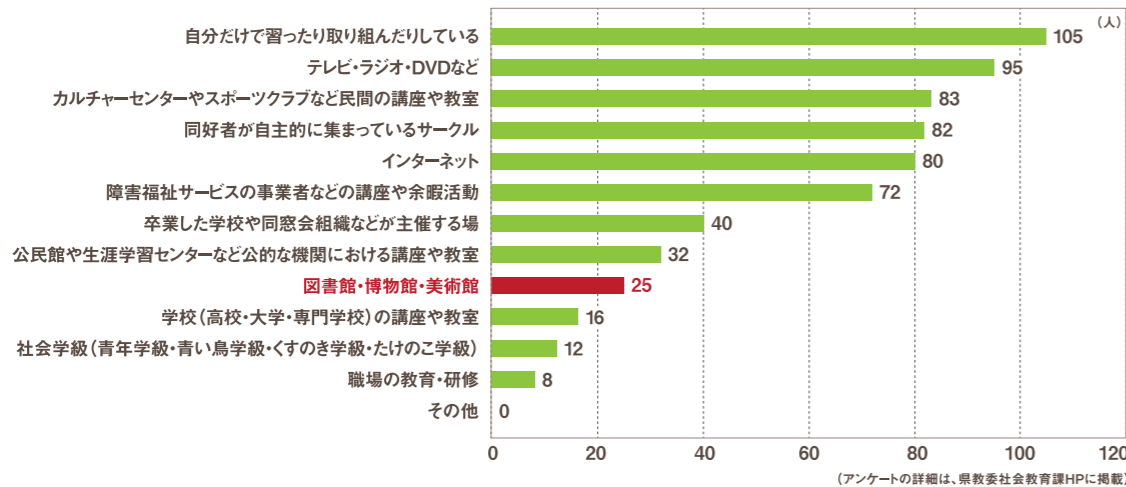
**A2.**

自由時間を使った活動場所として、図書館や博物館などの社会教育施設をあげる人の割合が

**6%**

自由時間を使った活動の場所

[有効回答数411 複数回答]



### 障害者側

- ・騒いだりして、他の来館者の迷惑にならないかな
- ・なんとなく敷居が高く感じる
- ・行っても楽しめないのでは？

→主体性を持って学ぶ意欲の育成

### 博物館側

- ・どんな配慮が必要かわからない
- ・障害者用の講座をどう周知したらいいの？
- ・敷居が高いと感じられてしまう理由はなんだろう？

→全ての人に開かれた博物館をめざす！

そこで

より利用しやすい施設をめざして実施する

## ミュージアムインクルージョンプロジェクト

障害者の生涯学習を支援するため、ミュージアム等の社会教育施設における活動を当事者の視点から見つめなおし、改善を加えることで施設の利用促進を図ります。

実施の  
**03**  
STEP

①障害のある方たちが  
博物館等を訪問

②「こうすればもっと楽しめる！」  
という意見をまとめて  
博物館等と協議

③意見をもとに、  
博物館等は可能な  
改善を実施

R4年度プロジェクト実施施設 (R5.1)  
県立人と自然の博物館／県立考古博物館／県立兵庫津ミュージアム／神戸華僑歴史博物館／伊丹市昆虫館／明石市立文化博物館／丹波篠山市立歴史美術館／豊岡市立歴史博物館

## 博物館の悩み

博物館が障害のある人にとって  
敷居が高い、と思われる理由が知りたい

障害者向けの講座を実施しているが、  
広く周知する方法を探している

事前に連絡をもらえると対応できることもあるが、  
突然の来館や申し出がなく、見た目配慮が必要  
かどうかわからない場合、どう対応すればよいか  
困っている

## 調査隊が感じたこと



### 車椅子利用の方から

- ・匂いを嗅いだりする体験設備に車椅子でも近づけるようにしてほしい
- ・わかりやすい展示を工夫してくれていた
- ・エレベーターの閉まるスピードが、もう少しゆっくりだいたい
- ・床の素材によって車椅子を進めるのに力がかかった



### 知的障害のある方から

- ・博物館は楽しいところだった！
- ・障害者向けの講座があることを知った
- ・触ってはいけないところといいところが混在しているのはわかりにくい
- ・声を出したり手をたたいたりするので、障害者向けに音や声を出してもいい時間を設けて欲しい
- ・展示について肯定的な表現で注意してほしい。“だめ”ばかりになると楽しくない場所という思い出が強く残ってしまうのが残念

### 聴覚障害のある方から

- ・展示室には筆記用具の持ち込みが禁止されているので、筆談する際に何か他の手立てがあればいい
- ・案内してくれた方の「より良い博物館にしたい」「何とか工夫したい」という想いが伝わってきた



### 視覚障害のある方から

トイレの電気をつけるスイッチがどこかわかりづらい

CHECK!

### 利用しやすくなるための 調査後の改善策(一例)

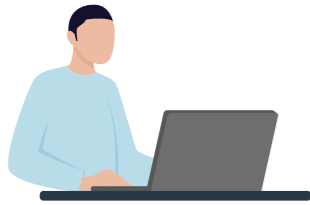
- ・展示室で筆談する際の手立てとして、電子ボードを準備した
- ・筆談を申請しやすくなるため、電子ボードを受付から見える場所に設置した
- ・トイレの照明スイッチ等への蓄光テープを貼り付けた
- ・触っていいものといけなものをわかりやすく場所をわけることや、絵や映像の説明を多くすることについては、展示内容を変更する際に取り組む

→ 対応可能なことはすぐに改善し、難しいことは長期的な計画も含め可能な範囲で検討中



すべての人に利用しやすい施設をめざして、取組が進んでいるよ!

## 02 知ってほしい、学びを支援する取組



家の近くにどんな学びの場があるのかな。  
ネットの情報だけではわかりにくいなあ。

→こんなお悩みには、**学び場検索アプリ**をご活用ください。

### ● どんなアプリ？

主に県内の学びの場を自分にあった条件で簡単に検索できるアプリです。動画や字幕を使って、活動紹介している団体もあります。新しい学びとの出会いにご活用ください。

こんな情報を掲載しています

- ・団体名
- ・参加形態
- ・活動内容
- ・特徴
- ・障害種別
- ・連絡先等

アクセスはこちら



▲ 詳細ページ



▲ 一覧ページ

登録団体数  
**102**団体  
(R5.1現在)



「何かやってみよう」と思ったなら、ぜひこのアプリで探してみてくださいね。たくさん学び場が紹介されているんだよ。

学校を卒業すると、学びに関する情報が入手しにくいんだって。  
どこで調べるといいんだろう？



### そこで

県立東はりま特別支援学校高等部の生徒を対象に、「学び場検索アプリ」を使って生涯学習について授業を実施

授業後の協議から

- ・学びの場検索アプリは、シンプルな操作性で、扱いやすい
- ・写真が掲載されているので、どんな活動が分かりやすい
- ・URLをクリックするとすぐにサイトにアクセスできて便利
- ・学生時代から生涯学習について考えておくと、卒業後の選択が広がる
- ・生徒は保護者と一緒に考える機会が多い。保護者や支援者にも啓発が必要



卒業する前にこのアプリを知っておくと、いざ何かをしたいと思ったときに便利だよ。



障害の理解はもちろんだけど、私たちの気持ちに寄り添った支援をしてくれる支援者がいてくれたらなあ。

### →学びを支援する人たちのための研修会を実施

当事者の思いに寄り添った支援者を育成するため、支援経験の浅い方を対象に、障害者の生涯学習に関わる基礎的な事柄についての講義と、障害のある方を交えた参加型パネルディスカッションを実施

テーマ つながろう！支援者の話・和・輪

当日の様子



参加者より

- ・立場ごとの悩みを知ることができて新たな気づきとなった
- ・障害者本人、さらに社会への「橋渡し」としての支援者の役割を自覚した
- ・当事者の声、ニーズをもっと知りたい
- ・支援者同士のネットワークができて良かった

→学びの当事者とともに、支援する側の学ぶ姿勢も大切です。

次は、いろんな学びの場を回って見てみよう！



# 03 学び場づくりの取組

## 身体障害者社会学級

教養や実践的な知識・技能等を習得するとともに交流の機会を通して、相互理解を深め、生きる喜びを想像する場を提供する事を目的に**県内各地**で実施。**各学級にはコーディネーターが配置されています。**

青い鳥学級(視覚障害者:8学級)  
くすのき学級(聴覚・言語障害者:7学級)  
たけのこ学級(筋ジストロフィー症者:1学級)

### 特徴的な取組例

- ・視覚障害者向けスマートフォン講座
- ・防災訓練、防災学習
- ・障害のある方から学ぶ講座
- ・地域の方や子どもたちとの交流講座
- ・ニュースポーツ講座

### コーディネーターにもとめられる資質

学級生のニーズと、連携団体、支援者をつなぐコーディネーターの配置や役割の明確化は、持続可能な支援体制づくりに不可欠です。コーディネーターには、多様な意見を柔軟に調整したり、学習者の主体的な学びをサポートし、**※ファシリテート**したりできる資質が求められています。**※学習を側面から援助し促進するような働き**

阪神くすの木学級芦屋教室  
現地研修(ヨドコウ迎賓館見学)



▲学芸員の説明を受けながら、地域を歩き、歴史的なスポットを見学した。視覚に訴える効果的な学習となった。

## 学ぶ楽しみプログラム

神戸大学の資源を効果的に活用し、言語によるコミュニケーションが可能な知的障害のある方が、学ぶことの楽しさを感じ、自己理解や他者理解、人格を陶冶するために実施。



演劇授業の様子

「学ぶ楽しみ発見プログラム(通称:KUPI)」は、神戸大学の一般の学生と知的障害学生とが共に学ぶ場づくりの実践です。

### CURRICULUM

期間:10月~2月(後期) 曜日:火・水・金  
時間:17:00~20:00

- 火** 一般学生向けの授業との合同授業
- 水** 神戸大学の教員による専門的な授業
- 金** 話し合いを中心とした主体的な学び

知的障害のある青年たちが、大学の授業に取り組みます。一般学生向けの授業との合同授業では、自分で作詞作曲し、歌って動画にするというメニューに挑戦しました。他にも、神戸大学の教員が行う哲学、心理学、宇宙物理学、教育学、音楽療法、社会保障論などの専門的な授業もあります。話し合いを中心とした主体的な学びをめざしています。年々、自己表現をしたり自己表現について考えたりする時間が増えてきています。

## 近畿Aブロック「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」の実施

学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を通じて、障害理解の促進や支援者同士の学び合いによる学びの場の担い手の育成等、障害者の学びの場の充実をめざして開催しました。

支援者同士がつながる  
ネットワーク作りも大切なんだね!



- 当事者と支援者による実践発表とそれぞれの視点を交えた協議
- オンラインの併用により、遠隔地からでも参加可能な体制で実施

### 当日の様子

**01**

**02**

**03**

**04**

①当事者の実践発表 (特定非営利活動法人あんだんてKOBE)

②支援団体の実践発表 (社会福祉法人かがやき神戸ぐりいと)

③会場における協議の様子 (神戸大学瀧川学術記念交流会館)

④講演 (県立考古博物館学芸員 新田宏子氏)

## 「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 受賞団体の取組

### 淡路市「手話サークル津名」

障害者が生涯を通じて教育やスポーツ、文化などの様々な機会に親しみ、豊かな人生を送ることができるよう、障害者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う個人又は団体について、その功労・功績をたたえ表彰されます。

### 活動概要

障害のある人々の完全な社会参加と共生社会の実現をめざして、体験学習や交流会を定期的に主催し、学びの機会を提供しています。聴覚障害者とともに手話を学びながら、地域行事や放課後子ども教室などで手話教室を開催し、手話や聴覚障害者理解に関する啓発を行うとともに、当事者団体主催行事などで情報保障の取組も行っています。



一緒に何か始めてみませんか?



参加者より

- ・様々な立場の方が参加しており、支援者同士の出会いの場となった
- ・サテライト会場でも同じテーマで学べることに意義を感じた
- ・今日は様々な取組に触れてよかった
- ・まさに学びの機会をいただいたことに感謝
- ・日々決まった施設で従事していると、他の活動を見る機会がないが、今回様々な取組に触れて刺激となった
- ・特別支援学校卒業後、社会との接点が減り、情報を得る機会もなくなってしまった。



当事者も支援者も交流することで、新しい気づきがあるよね。学びの場は心地よい刺激にあふれています!